

内閣府説明資料

平成31年2月14日

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会



エフォート管理の運用統一化について

実施可能。(以下のスケジュールにて実施予定。)

公募型研究費において、エフォートによる管理が可能となり、研究者の研究資金の使い勝手の向上に寄与してきたところであるが、各研究費で独自の運用がなされているため、エフォート管理が一般化しつつある現在において、運用の統一化が要望されている状況。

そのため、先行して、エフォート管理を実施している資金配分機関である、JST、AMED、NEDOの運用を極力統一化することで、研究関係事務の効率化につながると考えられる。

例えば、エフォート管理の運用について簡素化するとともに、様式、用語についても極力統一化することを検討する。

今後のスケジュールとしては、

(1) 統合イノベーション戦略2019までに、関係府省との間で、運用統一化の方向性について合意を得る。

(2) 2019年度末までに関係府省・機関間で運用の統一化を図り、合意された内容は、その後1年以内で順次事務処理マニュアルに反映させていく。

研究者の流動性向上について

実施可能。ただし、以下の論点を整理する必要。研究者の流動性向上については、社会全体の流動性の関係もあり、長期的に取り組むべき課題。内閣府としては、これまでの施策の効果を検証した上で、関係各省と協議しながら新たな施策を検討していく必要があると考える。

○優秀な研究者の流動性を高めるための方策の検討

○給与、退職金等も含めた総合的な検討

- ・海外から日本に異動する際の研究環境の整備、問題点

○クロスアポイントメント制度の積極的な活用

- ・制度設計の問題点
- ・現場での問題点

<今後のスケジュール>

- (1) 統合イノベーション戦略2019までに問題点を明らかにする。
- (2) 第6期科学技術基本計画に必要な政策を盛り込む。

競争的資金の応募申請様式の統一について

既に実施済み。

内閣府としては、これまで競争的資金に関する関係府省連絡会申し合わせにより、研究者、研究機関が研究資金を効果的・効率的に活用できるように競争的資金の使用に関わる各種ルールの統一化等を行い、研究資金の使い勝手の向上等を通じ、研究生産性の向上を図ってきたところ。

2017年4月に競争的資金にかかる応募申請様式の統一を行い、基本的な情報については、原則として統一様式を使用することとした（採否の判定にあたり独自に必要な項目については、各制度所管府省が別途様式を定めることとしている）。

これについては、2018年3月にフォローアップを実施して各省の導入状況を確認済（全府省で導入済み又は導入予定）。2019年3月に再度フォローアップを予定。

また、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）入力データとの整合性を図ることについては、次期オンライン入力全面移行時に行う予定（時期は未定）。